

授業作り	重点	○児童の「意欲を高める」「理解を深める」授業を実践する。基礎的・基本的な学力を確実に定着させるとともに、それを活用し主体的・対話的な授業の充実を図る。
環境作り		○一人1台タブレット端末を効果的に活用し、個別最適化された学び・協働的な学び・家庭と連携した学び等の充実を図る。ICT機器を効果的に活用し、児童の驚きや発見を導き、理解を深める。ユニバーサルデザインの視点から個に応じた学びの充実を図る。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		- 平仮名の読み方については、おおむね理解しているが、筆順や「とめ」「はね」等を正確に書くことについては、繰り返し練習し、定着させる必要がある。 - 知らない言葉を正確に理解できるように、教材文の音読や読み聞かせや読書の推進から語彙量を増やし、日常生活の中で使いこなせるようにする。 1から10の数は捉えられる。今後、物と物とを対応させることで個数を比べたり、個数や順番を正しく数えたり表したりすることなどを指導し、整数の意味について理解できるようにする。	①語句や語句のまとまりを意識した音読活動 ②読書環境の充実と学校図書館の活用 ③デジタルドリルやプリントを活用した反復学習 ④具体物、半具体物の活用 ⑤ICT機器を活用した学習
2 学 年		- 既習のひらがな・カタカナ・漢字について、概ね読み書きはできているが、誤字脱字や句点の打ち忘れが多いので、繰り返し見直しをする習慣を身に付けさせる。 - 文章を読むことに抵抗感はないが、順序を意識した読み取りや、想像を広げ、話全体の内容を正確に理解する力をさらに高める。 - 加法や減法の繰り上がりや繰り下がりのないものは概ね理解できているが、問題文から正確に立式をするためには、内容を正しく読み取る力を身に付けさせる。	①読書の記録カードの活用と読書環境の充実 ②週末の日記の課題 ③場面や段落ごとにキーワードの書き出し ④デジタルドリルの活用 ⑤文章問題の反復練習 ⑥具体物を取り入れた学習
3 学 年	- 新宿区学力定着度調査の結果から、漢字を読むことや書くことを苦手とする児童が多い。 - 文学的文章、説明的文章共に、細部まで正確に内容を読み取れず、大事な言葉に注目しながら読むことに課題がある。 - 繰り下がりのあるひき算に誤答が多い。 - 時計の時刻や時間を読み取ることが苦	- 学習した直後に行うミニテストでは正答率が高い。既習の漢字は、デジタルドリルを活用し繰り返し学習することで、確実な定着を図る。 - 文章の読み違いがないように、各場面・段落ごとにキーセンテンスやキーワードを読み取りながら授業を進めていく。 - 減法の場面の問題にたくさん触れられるようにする。 - 数直線や時計等の具体物を取り入れて、時計の概念を理	①デジタルドリルの活用 ②教科書の音読 ③朝読書の推進 ④計算問題の反復練習 ⑤具体物を取り入れた学習

	手な児童が多い。	解するとともにデジタルドリルを活用し、学習の定着を図る。	
4 学 年	・新宿区学力定着度調査の結果から、既習の漢字を文章中に書こうとする姿勢や、正しく使いこなすことに課題がある。 ・コンパスを使って「長さを写し取る」や「円を描く」といった活動を、正確に行うことに課題がある。 ・四則計算が十分に定着していない児童が多い。	・教材文に振り仮名が書かれていても、自分が文章を書く時には、漢字を使って書くように繰り返し声掛けをする。また、漢字の小テストを行うだけでなく、デジタルドリルを多用し、漢字を書く機会を増やす。 ・コンパスの使い方は理解しているが、操作を円滑に行うことに課題が見られる。「円を描く」や「長さを写す」活動を通して、コンパスの活用を繰り返し行い、円滑な操作を身に付けさせる。 ・日常の問題に加え、デジタルドリルを活用して反復練習をさせる。	①デジタルドリルの活用 ②作図問題の反復練習 ③計算問題の反復練習
5 学 年	・文章を書く際に既習の漢字を活用していなかったり、誤字脱字が多かったりする児童が半数以上見られる。 ・説明文において、各段落の役割を考えたり、要点をまとめたりすることを苦手とする児童が多い。 ・新宿区学力定着度調査において、小数のかけ算、割り算の誤答が多く見られる。 ・文章問題から正しく立式することに課題がある。	・学習した漢字を日常的に活用するよう、繰り返し声を掛ける。忘れてしまった漢字は漢字辞典で調べて確かめる習慣を身に付けさせる。 ・段落構成を理解したうえで、各段落の役割を読み取る力が必要である。児童への問いかけを工夫することで、中心となる言葉や文に着目できる力を養う。 ・正確に計算をしたり、正しく位取りをしたりするために、繰り返し問題を解いて習熟を図る。 ・文章問題の立式において、数量の関係を図に表して立式し、繰り返し問題を解いて習熟を図る。	①漢字辞典の活用 ②各段落の役割や中心となる言葉の理解 ③デジタルドリルの活用 ④文章問題の反復練習
6 学 年	・新宿区学力定着度調査の書く問題において、複数の資料から自分の考えを支える根拠を見付け、論述する問題の正答率が低い。 ・図形の定義や公式などの定着が不十分である児童が多い。 ・小数や分数など既習の四則計算に課題がある。	・説明文は文章を読み解くだけでなく、表やグラフが何を表しているかを読み取る練習を行い、根拠をもとに論述する力を養う。 ・デジタルドリルとプリント学習を併用して問題に繰り返し取り組み、定着を図る。 ・小数や分数の四則演算については、繰り返し問題を解き、習熟を図る。	①表やグラフの読み取り演習 ②デジタルドリルの活用 ③文章問題・計算問題の反復練習